

エッセー 自然が育む 力

秋も深まり、温かい飲み物など体の中から温めてくれる物がうれしい季節になりました。子どもと外へ遊びに行ったり、その場でたき火をして暖まることができれば、どんなに楽しいでしょう。焼き芋のおやつなんて最高ですね。

しかし最近では「たき火をする」という行為は、大人にとっても特別なことになってしまいました。子どもにとってもはおそろし体験の領域。子どもたちとキャンプしていると、火のついてい

たき火のススメ

子どもとつくる
「あたたかい」時間



大きめの缶たき火で、おやつ作りに挑戦する子どもたち

炭を素手で突然つまんだ、する知識と経験があまり、まきをやたらに入れないことを実感させられて火が大きくなって驚きます。

オロオロしている行動が、本来なら当然知って見られます。「火」に対するべき知識や経験がない

のは、危険だからと子どものない方には「缶たき火」もから火を遠ざけているを勧めています。クッキ大人側の責任ともいえません。

す。

たき火をするという行いは、自然の仕組みや知識を総合的に理解し、人間の生きる力の原点を知る素晴らしい機会です。木を燃やすためにどうすればいいのか、自分自身で考え工夫している子どもは、興味と関心と驚きに満ち、生き生きとしています。子どもにとって、好奇心こそが学ぶ力そのものであり、傍らにいる大人としては、そっと見守り伸ばしてあげたい瞬間ですね。

ただ今の親の世代もたき火をした経験は少なく、どこでも気軽にたき火ができる社会状況でないことも事実。私は経験

の、危険だからと子どものない方には「缶たき火」もから火を遠ざけているを勧めています。クッキ大人側の責任ともいえません。

す。

たき火をするという行いは、自然の仕組みや知識を総合的に理解し、人間の生きる力の原点を知る素晴らしい機会です。木を燃やすためにどうすればいいのか、自分自身で考え工夫している子どもは、興味と関心と驚きに満ち、生き生きとしています。子どもにとって、好奇心こそが学ぶ力そのものであり、傍らにいる大人としては、そっと見守り伸ばしてあげたい瞬間ですね。

ただ今の親の世代もたき火をした経験は少なく、どこでも気軽にたき火ができる社会状況でないことも事実。私は経験

(尼崎市立美方高原自然の家所長 田中誉人)